

誰もが美しくお箸を持てるように・・・みなさまのご支援をお待ちしております。

自作の絵本「豆わたし」(岩崎書店、A4判三十二ページ)は、箸を使って豆を移す競争で、対立していた二つの村が和解するストーリーで、箸の正しい使い方の解説も添えた。上嶋さんが原案を担当し、浜松市出身のイラストレーターで水墨画家の岡田潤さんに絵を依頼し四月中旬に出版した。

箸の使い方が気になりませんか。正しく箸を使えない人が増えているのを受け、NPO法人「ミナノ森プロジェクト」(浜松市天竜区)が、箸の美しい使い方を伝授する活動「日本お箸道」を始めた。使い方を楽しく学ぶことができる絵本を作り、段位を認定するなどの活動を進めている。

(木許はるみ)

「お箸道」浜松で始動

正しい使い方楽しく伝授



NPO法人 絵本やゲーム作る

「箸を育成し、飲食店やボランティア団体など各地での教室の普及を目指している。小学校での食育週間やPTA総会での教室開催の要望も来ているという。上嶋さんは「箸を正しく使えば、食材や食事を作ってくれた人への感謝の気持ちが見れる。一緒に食べる」

「豆わたし」の絵本は、箸の正しい使い方を親指の根本で箸の一本をばさんで薬指を添えて、もう一本を親指で押さえて中指で支えて人さし指を置く。人さし指と中指を使って一本だけ動かすのが正しい持ち方だ。目白大(東京都)が2009年に31歳から8069人を対象に、ピンポン球を箸で容器に移してもらって判定した調査によると、正しい使い方ができたのは、20代で男性が3割以下、30代で男女とも4割に満たず、1984年の調査よりも20〜30%ほど減少した。「食の欧米化で箸を使う機会が減り、核家族化で正しい使い方が継承されにくくなっているのでは」と分析している。

上嶋さんは外国人の参加も想定する。絵本を翻訳して飛行機内でPRしたり、旅行者とともに旅館や日本食レストランで教室を開き、外国人師範を誕生させて自分の国の和食料店で箸の文化を継承してもらおうことも考えている。

講座と絵本の問い合わせは、ミナノ森プロジェクト 電話053(415)8050へ。



平成 27 年 9 月 浜松市立船越小学校 食育講座にて

平成 27 年 4 月 浜松市立水窪小学校 PTA 総会にて読み聞かせ